



## ◆麻酔科紹介 鈴木 尚志 教授

「麻酔科」は馴染みが薄い存在かもしれませんが。病理診断科や放射線診断科と同様、当院には麻酔科の外来部門は有りませんが、裏方で病院を支えています。急性期医療を目指す施設では、手術部門は病院の要といっても過言ではありません。私達麻酔科医は、総勢 12 名のスタッフと若干の非常勤医師で、手術中の患者さんの安全を担っています。開院以来、手術件数は年々増加し、昨年度は約 5,600 件の手術が行われました。それらのうち、全身麻酔を中心に複雑な手術や時間を要する手術は麻酔科医が管理しており、その件数は約 3,800 件を数えました。

当院の特色の一つとして週末・休日の外来診療が挙げられます。手術室も例外ではなく、週末・休日にも予定手術が実施されています。高度に資本投下された手術室という医療資源を最大限に活用するための類を見ない試みです。実際、昨年度は全体の約 20%に相当する件数の手術が、土・日曜日に行われました。緊急性に乏しく、術後の速やかな退院が見込める手術であれば、週末や連休を利用した手術日を設定することで、通学や勤務への影響を最小限に留めることができます。

麻酔科が提供しているサービスの一端を紹介します。歯科治療に恐怖感や不安感を抱く患者さんは少なくありません。「親知らず」の抜歯などの際は、点滴から麻酔薬を投与することで、半分眠ったような状態で処置を行うことができます。終了後は、暫く休んでいただきますが、通常 1 時間以内には帰宅できます。こうした治療を希望される方は、歯科・口腔外科でご相談ください。また、硬膜外麻酔と呼ばれる麻酔の技術を応用した無痛・和痛分娩の受付を昨年からはじめました。現在のところ、第 2 子以降の分娩のみを対象としています。応需可能な件数も限られていますが、希望される方は、まず産婦人科医にご相談ください。



### 第 53 号のトピックス

- 麻酔科紹介
- からだを動かそう④
- 「ご意見・ご要望」についての回答
- 編集後記



## 【姿勢改善運動】からだを動かそう④ 青木作業療法士監修

姿勢が悪くなる主な原因は生活習慣です。姿勢改善のためには、肩甲骨、背骨、骨盤などの動きの認識を高めることが重要です。この運動プログラムは椅子で座って行うもので、転倒の危険性が少なく高齢者にとっても安全にできます。運動はゆっくりと行うことで効果があります。

回数：10回2セット（朝・夕）

効果：猫背予防、肩こり改善

### I. 上肢（腕・肩回り）の運動

#### ①腕上げ運動



①両手を組み、腕をゆっくりと挙げる。



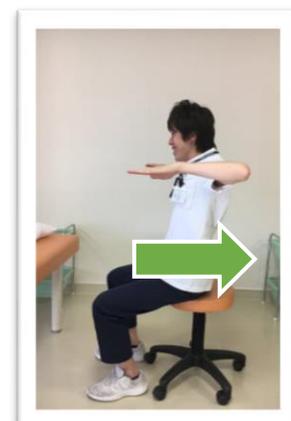
#### ②肩甲骨の挙上運動



②両側の肩甲骨を耳たぶまでくっつけられるように挙げます。



#### ③肩回転運動



③両手を伸ばし、肘を前から後ろに引く。このとき胸筋が伸ばされることを意識する。

## Ⅱ. 体幹（お腹周りの）の運動

### ①体幹運動



①両手を伸ばし、その状態で手指のグーパーを行う。手指の反復運動により、体幹の筋肉に刺激を促す。



### ②回旋運動



②両手を前方で組み、肘を伸ばした状態で、左右にゆっくりと体を回旋させる。

## Ⅲ. 下肢（足）の運動

### ①足踏み運動

①床に足をつけて、足踏みを行わせる。ゆっくりとしたペースで、腕も足に合わせて振る。



### ②足関節の運動

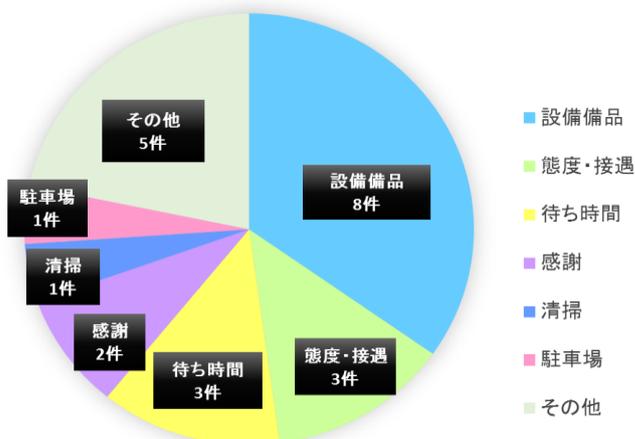
②踵を床につけたままつま先をしっかりと上げる。左右同時または左右交互に行う。



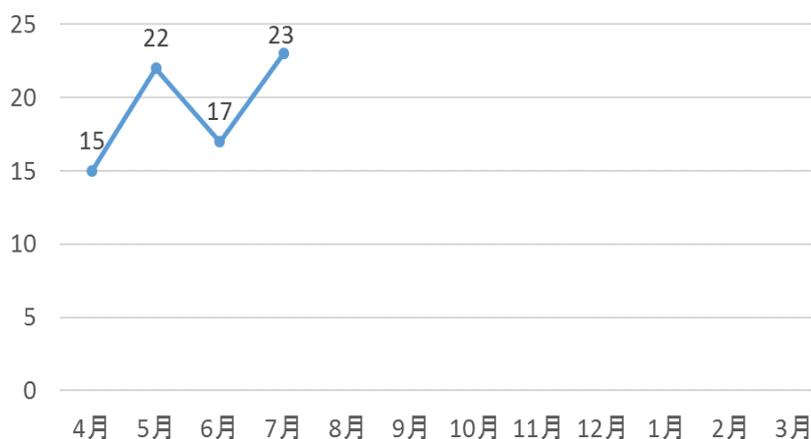
## ◆「ご意見・ご要望」についての回答

ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>消化器内科でCTや検査結果を患者に渡さないのは不親切。改善してください。</p>	<p>消化器センターでは、患者さんの希望がある場合に血液検査などの結果をプリントして渡しています。画像検査結果も基本的にはプリントして渡しています。 各担当医に申し出ていただければ対応いたします。 回答部署：消化器内科</p>
ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>テイルームの景色は絶景です。特に夜景が素晴らしい。なので、照明を少し押さえて、BGMでも流せばとてもリラックスした素敵なスペースになるのではと思います。</p>	<p>この度はお褒めの言葉をいただきありがとうございます。照明の調整及びBGMに関しまして、患者さんの安全面と夜間はお休みの患者さんのことを配慮し、現状では難しい状況です。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。今後とも、患者さんやその家族にとってより良い病院づくりに努めてまいります。 回答部署：管理課</p>

平成30年7月分  
ご意見・要望の内訳  
総件数23件



平成30年度ご意見・ご要望の推移



### 編集後記 心臓血管外科 光山 晋一

世界中を熱狂させたサッカーワールドカップが終わりました。我々が日本代表の大活躍に多くの勇気と感動を貰いました。2020年には東京でオリンピックが開催されます。その前に世界的なスポーツイベントが日本で開催されるのをご存知ですか？来年2019年にラグビーのワールドカップが日本で開催されます！サッカー同様4年に1度開催されるこの世界的なスポーツイベントがアジアで開催されるのは初めてであり、かつラグビー伝統国以外で開催されるのも初めて！キャッチコピーの「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」は決して大袈裟なものではありません。多くの人々に勇気と希望を与える世界的な大会が日本で開催されるのが今から楽しみです！

